



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

市民の生涯に「感謝と思いやり」

火葬場を無料から有料にする条例に反対

第1回定例市議会では、火葬料金を有料にする条例改定がなされました。一般会計予算とあわせ、日本共産党の福田明議員がおこなった反対討論の概要を紹介いたします。

議案第12号は、亡くなった市民の方の火葬料金を有料にする条例改定です。現在、火葬料金を無料にしているのは、県内では本市をふくめて4市のみといわれます。財政がきびしい折、他市並みに有料にすべきだと考える市民もいると思います。しかし、私があえてこの条例に反対するのは、たんに財政からだけでは論じられないからです。

「死は人間にとって究極の平等」です。どんなに豊かな人でも、また貧しい人にも、死は必ず訪れます。市民が生涯を終えるときに、自治体がどういう態度で見送るのが問われるわけであります。せめて亡くなった時ぐらい、火葬は無料にして、その生涯に感謝をこめ、ていねいに見送る。これこそ、豊田市長の掲げる「感謝と思いやり」だと思います。



写真は、平潟町に残る旧日本軍の秘密兵器「風船爆弾」の放球台跡です。2月13日、「北茨城・九条の会」が現地見学をおこない、貴重な遺跡の保存や活用について考えました。つづけて2日後には、月刊誌「常陽藝文」の取材も案内したとのこと。

有料化で、400万円ほどの収入が見込まれるかもしれませんが、いっぽう私が述べたような立場から無料を継続すれば、それをはるかに上回る有形無形の効果が期待できます。特にこれから市政を進めていくうえで絶対に欠かせないのが市民の協力と共同です。この行政と市民との信頼関係の深まりこそ、市政を前進させる最大の力であり、まわりまわって収納率の向上にもつながると確信します。

以上の立場から、火葬料の有料化を求める議案第12号、北茨城市火葬場条例の一部を改正する条例に反対するものであります。



こけら落とし

改修が終わった市民ふれあいセンターで、2月14日に「健康づくり講演会」と映画上映が開催されました。定員を上回る450人の参加者で、パイプイスも出していたの盛況ぶりでした。

映画『硫黄島からの手紙』を見た市民から「情報もなの中で戦闘継続の悲惨さもさることながら、今の生活でもいろんな情報を知る必要があると感じた」との感想も聞かれました。

議案第25号は、平成21年度北茨城市一般会計予算です。地方財政がきびしいなか、特に法人市民税が約1億円減少（実際にはもっと落ち込む？）するという状況で、苦労した予算編成だったと察知しています。

おおむね賛成できる内容ですが、先に述べたとおり火葬有料化にともなう収入が含まれており、一般会計予算に反対します。

新しく副市長が就任

3/1付けで石田奈緒子氏

これまで空席となっていた副市長人事について、市長から提案があり、議会でも承認されました。

茨城県職員(笠間市在住)で、生活環境部環境対策課課長補佐の石田奈緒子氏です。1986年県庁入庁、生活福祉部、総務部、農林水産部などに在籍。2月末日をもって県を退職し、3月1日付で就任します。

定数減にともなう 常任委員会の構成変更

すでに本紙でもお伝えしているとおり、市議会の定数が2名減って22名となります。これにともなって、常任委員会の構成が変更となります。

現在は、総務委員会、文教厚生委員会、産業委員会、建設委員会の4つですが、後者の2つが統合され、総務、文教厚生、産業建設委員会の3委員会となります。現行6名ずつの定員が、それぞれ8名、7名、7名となります。また議会運営委員会は8名から6名となります。